

シラバス (様式)

授業科目名： 地域研究の理論と方法 Theory and Methods of Regional Research	選択/必修： 選択 Elective	単位数： 2	semester： 1 前 1Spring	担当教員名： 袴田茂樹、浅羽祐樹 Shigeki Hakamada Yuki Asaba
<p>○授業の到達目標及びテーマ 地域の形成、成り立ち、地域内の関係、動態等についての理論と方法を教授し、研究発展科目（地域研究）の基礎とする</p>				
<p>○授業の概要 地域研究は、特定の地域（北東アジア、東アジア、東南アジア等）についての多角的な視点からの研究であり、それは各国研究をも含むものである。学問分野としては、単に政治、経済だけではなく歴史、文学、宗教、文化、言語など幅の広い領域を取り扱う。したがって、マルチ・ディシプリナリーな（多学問領域的な）地域研究の理論をとりあげる。</p> <p>地域研究の方法として、一般的な理論と個別現象の分析（イディオグラフィックな方法）、説明的な方法と了解的な方法、数量的な方法と質的な方法という方法論を対比しながら講義を進める。さらにケース・スタディ、現地調査などの方法をも取り上げる。</p> <p>○授業の方法 1) 使用言語：基本的に英語とする。 2) 受講生は、授業計画に示されている基本文献をあらかじめ読んだ上で授業に参加すること。担当教員が知識を一方向的に教授するのではなく、受講生とのインタラクションを重視する。毎回、授業の進行状況に応じて適宜ディスカッションやグループワークを実施する。受講生は自主的に研究を行い、積極的に発言することが求められる。</p>				
<p>○授業計画 第1回に授業内容の紹介等を行い、第2回以降は2部構成で、袴田・浅羽がそれぞれ7回ずつ担当する。</p> <p>第1部：（第1回～第7回）（袴田担当） 第1回 現実認識と理論構成 地域研究に関して、現実認識と理論構成の関係について考える。地域研究とは、単なる実証的な事象の羅列であってはならず、またリアルな現実認識を欠いた「理論のための理論」であってはならない、との観点から考察する。</p> <p>Relations between understandings of regional realities and academic theories.</p> 第2回 ソ連認識の理論と方法				

ソ連認識に関して、1980年代までの実際のソ連の現実とソ連研究や社会主義理論の乖離について、その問題点を考察する。同時に、社会主義とは何だったのか、についても、政治、社会、文化を含め総合的に考察する。

How to understand the USSR : theories and methods.

第3回 現代ロシア認識の理論と方法

1990年代以後の現代ロシアに関する認識に関して、幾つかの異なったアプローチや方法論を、具体的な例を示しながら比較、検討し、同時に現実のロシア認識を深める。文明論的、文化論的考察も重視する。

How to understand today's Russia : theories and methods.

第4回 中央ユーラシア認識の推移

中央ユーラシア（主として中央アジア、コーカサス地方）認識に関して、ソ連時代と現代の違いを比較する。研究の方法論の変化だけでなく、それを要請した現実の変化についても考察する。

How to understand Central Eurasia (the Central Asia and the Caucasus): Comparative analyses of Central Eurasia of soviet period and today.

第5回 東アジアの認識の推移

主として中国認識の変化について、イデオロギーと現実認識、中国認識の方法論の推移などについて検討する。

Changing East Asia and China : theories and methods.

第6回 北東アジアの諸問題とその認識

「安全保障のジレンマ」の具体例としての中ソ対立を取り上げる。また、現代の中露関係に対するロシア側認識と中国側認識の違い、北朝鮮をめぐる6者協議などについて、現実と理論の両側面から検討する。

Problems in the Northeast Asia and “the Security Dilemma” : The case of confrontation between the Soviet Union and Communist China

第7回 前半の授業のまとめ

地域認識のあり方について、第7回までの授業を総括する。また、地域研究、国際認識のあり方について、総合的に考察する。

The summary of lectures.

第2部：地域研究のリサーチ・デザイン（第8回～第14回）（浅羽担当）

地域研究、特に一国研究の方法論として依然として主流な定性的研究について、定量的研究の大家が批判した定評のあるテキストに沿って、科学的推論たりうる方法論を習得しつつ、各自対象とする地域に関する先行研究をレビューしていく。

The latter half of the class, Week 8-14, is aimed at acquiring scientific method of area studies by reading one of the modern classics in the qualitative methodology and doing literature review on your case.

第8回

対象とする地域や、定量的研究と定性的研究の相違を問わず、社会科学が科学たりうるための条件、そのための推論の方法について検討する。

Examination of the requirements for “scientific” inference, irrespective of the differences in cases of your choice and research methodology.

* Gary King, Robert O. Keohane, and Sidney Verba, *Designing Social Inquiry: Scientific Inference in Qualitative Research*, Princeton University Press, 1994, ch.1 “The Science in Social Science,” hereinafter KKV (邦訳は、G・キング、R・O・コヘイン、S・ヴァーバ (真淵勝監訳) 『社会科学のリサーチ・デザイン：定性的研究における科学的推論』勁草書房、2003年、第1章「社会科学の『科学性』」)
・久米郁男『原因を推論する：政治分析方法論のすゝめ』（有斐閣、2013年）序章「説明という試み」・第1章「説明の枠組み」・第2章「科学の条件としての反証可能性」・第3章「観察、説明、理論」

第9回

地域研究は「分厚い記述」で十分なのか。その「記述」を行うときでさえ従わなければならない推論の方法とは何か。

Understanding the difference between thick description and descriptive inference.

* Ch. 2 “Descriptive Inference,” KKV. (前掲書、第2章「記述的推論」)

・久米、前掲書、第4章「推論としての記述」

第10回

科学的推論に欠かせない因果的推論とは何か。原因と結果の関係についてどのように見立てるといいのか。

Understanding causal inference, or scientific analysis of the relations between causes and effects.

* Ch. 3 “Causality and Causal Inference,” KKV. (前掲書、第3章「因果関係と因果的推論」)

・久米、前掲書、第5章「共変関係を探る」・第6章「原因の時間的先行」

第11回

地域研究で陥りがちな事例選択バイアスとは何か。どのように対応したらいいのか。

Understanding case selection bias in area studies

* Ch. 4 “Determining What to Observe,” *KKV*. (前掲書、第4章「何を観察するか」)

・久米、前掲書、第8章「分析の単位、選択のバイアス、観察のユニバース」

第12回

因果的推論において常に避けなければならない内生性とは何か。どのように対応したらいいのか。

Understanding the problem of endogeneity in causal inference

* Ch. 5 “Understanding What to Avoid,” *KKV*. (前掲書、第5章「何を避けるべきか」)

・久米、前掲書、第7章「他の変数の統制」

第13回

地域研究で陥りがちな自由度の問題とは何か。どのように対応したらいいのか。

Understanding the degree of freedom in small-N analysis

* Ch. 6 “Increasing the Number of Observation,” *KKV*. (前掲書、第6章「観察の数を増やす」)

・久米、前掲書、第9章「比較事例研究の可能性」・第10章「単一事例研究の使い方」

第14回

各自対象とする地域に関する先行研究についてKKVの観点からレビューする。その際、KKVについて定性的研究の側から再批判した論考 (Alexander L. George and Andrew Bennett, *Case Studies and Theory Development in the Social Sciences*, MIT Press, 2005 (邦訳は、アレキサンダー・ジョージ、アンドリュウ・ベネット (泉川泰博訳) 『社会科学のケーススタディ：理論形成のための定性的手法』勁草書房、2013年) を踏まえることが望ましい。

A literature review on your case from the viewpoint of scientific inference in qualitative research.

・久米、前掲書、終章「政治学と方法論」

第15回

第1部の期末レポートと第2部の先行研究レビューについて報告し、議論する。

テキスト

第1部：出来るだけホットな時事問題に絡めて講義を行う予定。したがって、参考文献や資料は、各回の講義時にその都度提供、指示する。

第2部：各週に提示 (授業計画を参照、「*」で表示)

参考書・参考資料等

第1部：出来るだけホットな時事問題に絡めて講義を行う予定。したがって、参考文献や資料は、各

シラバス (様式)

回の講義時にその都度提供、指示する。

第2部：各週に提示 (授業計画を参照、「・」で表示)

学生に対する評価

第1部：(50点)

授業中の報告、討論の内容および授業参加の積極性 (25点)

期末レポート (25点 教師の見解との異同は評価に無関係。分析、考察の深さが評価対象)

第2部：(50点)

- ・毎週授業に先立ち提出するショート・ペーパー (テキストの内容の要約と当該内容と関連させながら各自が対象とする先行研究のレビュー、合わせてA4で2枚、シングルスペース、10.5ポイント) : 3点*7回=21点
- ・クラス討論への貢献 : 2点*7回=14点
- ・先行研究レビューの報告 : 15点